

3

Annual Report 2012

各部

看護部

薬剤部

放射線技術部

臨床検査技術部

臨床工学部

リハビリテーション部

栄養管理部

感染制御部

医療安全管理部

臨床研究管理部

事務部

医療事務課

医局秘書課

資材課

施設課

システム開発室

総務課・財務課

地域医療連携センター

健康管理部

【看護部】

看護部は2006年から7対1看護体制を取得し、働きやすい職場環境作り、ワークライフバランス、キャリアアップを視野に入れた看護部体制作りに取り組んでいます。また、看護師一人一人の力が質の高い看護提供に繋がると考え、教育体制の充実やモチベーションアップのための仕組みを作っています。個々の看護師の専門性を活かした自律した活動展開は、地域の患者さんに質の高い看護を提供する役割を担っています。他にも専門の講師を招き看護研究、看護に関する学習会を定期的で開催し、専門職者としての知識・技術の習得に努めています。

2012年度看護部実績を中心に、「法人内認定看護師の活動」、「看護外来の件数」、「新人看護師研修プログラム」、「ラダー別教育プログラム」などの詳細を項目別に報告します。

主な施設基準

7対1入院基本料
急性期看護補助体制加算(25対1)

職員配置

■看護職員数および配置

2013年3月31現在

		3階西 病棟	3階東 病棟	4階西 病棟	4階東 病棟	5階西 病棟	ICU	透析室	手術室	外来	糖尿病 センター	看護 事務室	合計
常勤	看護師	33	30	30	40	31	38	9	20	12	5	4	252
	准看護師	1	2		1	1		2	1	4			12
非常勤	看護師	1	4	4	4	6		8	4	10	5	3	49
	准看護師	3	7	5	4	3	1	5	1	3		1	33
合計		38	43	39	49	41	29	24	26	29	10	8	346
常勤	ヘルパー	2	1	1	3	1			1				9
	ヘルパー	1	3	4	1	3	1	1	2				16
非常勤	病棟 アシスタント	1	1	1	1	1	1		1			1	8
	診療 アシスタント				3	1				12	7		23

■常勤および新人看護師の離職率 過去5年間の離職率は以下に示す通りです。

	常勤看護師離職率(全国平均)	新人看護師離職率(全国平均)
2008年度	15%(12.6%)	—
2009年度	13%(11.9%)	18%(8.9%)
2010年度	12%(11.2%)	17%(8.6%)
2011年度	9%(11.2%)	17%(8.1%)
2012年度	10%(10.9%)	4%(7.5%)

■認定看護師の活動

現在、緩和ケア・感染管理・がん化学療法看護・脳卒中リハビリテーション看護の4領域で6名が活動しています。

2013年度は「救急看護」、「集中ケア看護」の教育課程に2名進学予定です。



認 定 名	取得年	教 育 機 関	更 新 年
緩和ケア	2005年	日本看護協会 神戸研修センター	2010年
感染管理	2007年	日本看護協会 神戸研修センター	2012年
緩和ケア	2008年	久留米大学医学部認定看護師教育センター	
がん化学療法看護	2010年	久留米大学医学部認定看護師教育センター	
がん化学療法看護	2010年	久留米大学医学部認定看護師教育センター	
脳卒中リハビリテーション看護	2011年	熊本保健科学大学	
救急看護	2013年受講	九州国際看護大学	
集中ケア看護	2013年受講	西南大学	

①緩和ケア認定看護師 福田 富滋余、桃田 美智

緩和ケアは、病気とともに生きる患者さんが辛くないように病気と付き合っていく方法を患者さん・ご家族とともに考え、心と身体、生活をサポートしていくケアです。がんなどの疾患に対し、病気そのものや治療に伴う様々な苦痛を和らげ、患者さんとご家族のQOLを維持・向上することを目的とし、治療早期から最期の時まで主治医・担当看護師とともに支援します。

②感染管理認定看護師 奥田 聖子

「白十字グループに関わる全ての人を感染から守る」を使命とし、感染防止に取り組んでいます。2012年から大流行している風疹ですが、当院は以前より抗体獲得に取り組んでおり、感染を受けない、感染源にならないような体制を作っています。

③がん化学療法看護認定看護師 辻 かよ子、原田 里香

がん化学療法に特化した知識と技術をもとに、安全な投与管理、副作用症状のマネジメント、患者さんがセルフケアできるような支援を行うことが求められています。また、看護スタッフの指導・相談を行うとともに、自己の臨床実践能力を向上させ、がん化学療法看護の発展に貢献していく役割があります。『がん化学療法を患者さん・ご家族が安心して安全に安楽に受けられるとともに、がん化学療法に携わるすべてのスタッフが安全に安心して看護ができる』ことを目標に活動を行っています。

④脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 山口 淳也

現在、脳卒中は死因の第4位ですが日本人の寝たきり疾患患者の第1位を占め、また人口の高齢化とともに患者数のさらなる増加が予想されます。脳卒中リハビリテーション看護認定看護師は、発症直後・超急性期から脳卒中患者さんの病態予測を行い、重篤化を回避するためのモニタリングやケア、廃用症候群予防、家族を含めた退院支援・再発予防に努めていきます。

■学会認定看護師

専門学会認定看護師の資格取得を支援し、資格取得後は、看護の質向上に努めています。

2013年3月31現在

認 定 名	人数
一次救命処置認定看護師(BLS)	30名
日本糖尿病療養指導士	12名
リウマチケア看護師	8名
二次救命処置認定看護師(ACLS)	8名
消化器内視鏡技師	6名
透析技術認定士	4名
ISLSプロバイダー	3名
呼吸療法認定士	3名
弾性ストッキングコンダクター	3名
I V R 看護師	2名
リンパ浮腫指導技能者	1名

■法人内認定看護師の活動

法人内認定看護師とは、1～2年間認定看護師や学会認定看護師、診療部等の講師から講義や活動の支援を受けることで得られる法人内の資格です。2012年度からは、「がん化学療法認定看護師」も誕生しています。

認 定 部 門	認 定	2012年度受講者	認 定 部 門	認 定	2012年度受講者
説明支援ナース	11名	4名	N S T	2名	3名
皮膚ケア	5名	3名	がん化学療法	1名	4名
緩和ケア	4名	2名	ケア技術指導者	2名	0名
感染管理	6名	2名	合 計	31名	18名

■活動状況

■地域共同学習会および出前講座

認定看護師・法人内認定看護師・学会認定看護師が中心となり、地域医療機関を対象とした研修会を実施しています。出前講座は、「緩和ケア」を中心に東北地区で開催しています。

開 催 日	タ イ ト ル	担 当	参加数
2012年5月26日	感染対策の基本!! ～院内ラウンドの基本を知る～	感染管理認定看護師	86名
2012年6月30日	あなたも私もらくらく介護 ～日常生活編:排泄(実践)～	緩和ケア認定看護師	58名
2012年9月15日	褥瘡ケアの実践!! ～事例を通して～	法人内認定皮膚ケアナース・ 法人内認定NSTナース	25名
2012年11月24日	やってみよう! ～リウマチ患者の教育と指導～	リウマチケア看護師・医師・栄養士・ 理学療法士	19名
2013年3月23日	エンゼルケア・エンゼルメイク!第三弾 ～「看取りのケア」を一緒に見直しませんか～	緩和ケア認定看護師・ 法人内認定緩和ケアナース・緩和チーム	68名

■看護外来実績

認定看護師・法人内認定看護師・学会認定看護師が中心となり、市民・患者・家族・地域医療機関のスタッフを対象に相談・指導などを行っています。2012年度の実績は以下のとおりです。

	(件)												
看護外来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
がん支援	18	58	40	55	47	50	24	24	27	36	55	34	468
皮膚ケア	17	28	42	49	31	41	21	15	16	16	17	23	316
下肢静脈	13	38	11	6	15	13	13	9	9	7	10	14	158
糖尿病	5	75	12	8	9	4	6	4	11	3	1	7	145
禁煙	5	3	4	1	2	2	5	1	1	1	3	3	31
女性のための尿失禁	1	5	4	0	1	0	0	0	0	1	0	0	12
脳卒中	-	-	5	1	1	0	0	2	2	0	1	0	12

※5月は健康フェスタでの対応数も含む。

■ 新人看護師研修プログラム

新人看護師は、人事本部の研修を3日間、看護部の集合教育3日間を行った後各部署へ配置されます。さらに以下の年間教育プログラムに沿った研修と、各部署での看護技術指導があります。



2012年度 新人看護師 年間教育研修スケジュール

	集合研修				OJT活動	
	A:新人看護師研修	A:教育担当者	B:Eナース	人事本部・病院全体	実地指導者 教育担当者 部署課長	他部署技術交流研修
4月	入職前研修 3日間	就職前研修	4日(水)基礎から学ぶ酸素療法(基礎)	17日(火) 新人職員研修(24名)		
5月	18日(金) 15:00~17:30 第1講義室	検体の取り扱い・ 輸血など	検査課・血液センター1G担当 参加:担当部署より1名ずつ	6日(日)心電図の基本を極める 18日(金)意外と知らないME機器 の使い方	目標面接	★評価確認
	31日(木) 15:00~17:30 第2講義室	看護必要度について	業務委員会 原田主任 2G担当 参加:担当部署より1名ずつ			
6月	1日(金) 15:00~17:30 第3講義室	与薬技術 (麻薬・劇薬・毒薬など)	薬剤部 3G担当 参加:担当部署より1名ずつ	6日(水)実践フィジカルイグザミネー ション(基礎)		★評価確認
	9日(土) 15:00~17:30	看護診断	記録委員会 小柳課長 1G担当 参加:担当部署より1名ずつ	15日(金)院内急変予測できる フィジカルアセスメント		
7月	9日(月) 15:00~17:30 第1・2・3講義室	感染第2弾	感染制御部 奥田係長 院内認定看護師 参加:担当部署より1名ずつ	4日(水) 心電図モニター装着の実践編(基礎)		
		個人面接	横山看護部長	13日(金) 新人フォローアップ研修	★評価確認	(例) OP室/救外→ICU 3東病棟→ICU/HD ★約束事項★ ①他部署の研修希望 ②教育担当者委員会で調整 ③担当指導は教育担当者(交流の部署どちらが)ついてても可 ④自部署の課長・主任へあらかじめ報告を行う ⑤必ず委員会で申請と調整を行う ⑥日程が決定したらお互いの課長へ勤務の調整を申し出る
	13日(金) 12:00~17:30	新人看護師 茶話会	合川課長			
8月	5日(日) 14:30~17:30 第1・2講義室	救急救命処置	中尾医師、井口Ns、山下麻Ns 2G担当 各部署・教育担当者	15日(水) 看護必要度と看護記録		
	21日(火)・27日(月) 17:00~17:30 新館4階会議室	実地指導者 意見交換会	合川課長			
9月	14日(金) 14:30~17:30 5階 第1・3講義室	人工呼吸器について 基礎編	臨床工学部 前田課長 教育担当者より1名+合川課長	5日(水) そこが知りたい!薬剤知識 ~問い合わせ事例より~ 19日(水) 基礎から学べる 感染管理技術の実際とその効果		★評価確認
	24日(月) 15:00~17:30 第1講義室	放射線研修	放射線技術部 参加:担当部署より1名ずつ			
10月				20日(土)9:00~12:00 安全における報・連・相と 報告書の書き方		
11月						
12月		リフレッシュ研修予定: ボーリング大会	野口次長・合川課長	5日(水)高齢者認知症患者の看護		★評価確認
1月				9日(水)嚥下アセスメント方法を知る		
2月					2日(土)9:00~12:00 安全管理 照合	
3月	平成25年 12:30~(1時間)	新人ランチョン面談会	横山看護部長・野口次長・ 合川課長			★評価確認

■ラダー別研修プログラム

「人材育成」、「人材活用」、「能力評価」を目的として、ラダー制を導入し、多くの研修を行っています。

看護職務の内容と看護職に求められる能力を規定したキャリア開発設計図であり、活用することで各自の役割認識を高め、患者さんに対して質の高い看護を提供できます。個人の申し出により、以下のクリニカルラダーを用いて、個人のキャリア開発を推進しています。



2012年度 ラダー別研修プログラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ラダーⅡ		フォロー 10日・11日	ケース スタディ 23日	メンバ シップ 24日			ケース発表 6日					
ラダーⅢ		①リダーになる ために 課題を明確に 30日	フォロー 5日・6日					①リダーになる ために 課題へどのよ うに取り組ん だか10日				
ラダーⅣ						フィッシュ 理論 1日					成果発表9日	
ラダーⅤ			①自部署分析 課題を明確に 29日		①フォロー アップ31日		①フォロー アップ12日		自部署分析 取り組みと 結果 15日			
ラダーⅥ	監督者として 13日	スタッフの メンタルヘルス マネジメント 田口善弘先生 22日						自分を知り、 相手を知る in 烏帽子				
ラダーⅦ				キャリア 開発支援 6日			人材育成 26日					
選 択 研 修	事例から スタッフ指導 を考える 24日	組織感情論 16日		選択型研修 Ⅲ以上 OJT研修 実地指導者 選択型研修 Ⅳ以上 リダー研修 初級・中級		事例から スタッフ指導 を考える 25日				事例から スタッフ指導 を考える 25日		
選 択 研 修 病 院 管 理 看 護 管 理			管理者研修 新任監督者 研修				監督者研修		新任監督者 研修			次年度実地 指導者 ↓ 新指導者研修
ト ピ ッ ク ス	実習指導者 研修6日	26日感染	30日 ケア技術	28日 リウマチ		15日皮膚ケア NST	27日緩和	24日糖尿病				院内認定看護 師活動報告会 1日
E ナ ー ス	9日・18日	2日・16日	6日・20日	4日・18日	1日・15日	5日・19日	3日・17日	7日・21日	5日・19日	9日・23日	6日・20日	6日・21日
ホ ス ピ タ ル フ ォ ー ラ ム 管 理 監 督 者 向 け	1クール 看護の知①②③			2クール 看護の知 実践①②陣田白熱教室			3クール 人的資源管理 組織論 専門職論			4クール 実践講座1 実践講座2 陣田白熱教室		
看 護 診 断			9日(新人対 象)		4日		13日				23日	
看 護 研 究		2日		13日		21日			7日	18日		30日
ス キ ル 研 修	初回はAラインの準備⇒固定⇒モニターセットまで その後は受講者の意見、必要性から考えて企画します。1グループ4人程度で実技指導とします。											

学会・研修会への参加実績

外部講師から定期的に研究の指導を受けています。日本看護学会の各領域の学会を中心に、以下に示すように各部署から発表しています。また、専門学会にも多数発表しております。詳細はP210をご参照ください。

部 署	学 会 名	月 日
I C U / 透析看護課	日本看護協会 成人看護I	9月20日・9月21日
3階西病棟	日本看護協会 看護総合	8月23日・8月24日
3階東病棟	日本看護協会 看護総合	8月23日・8月24日
4階東病棟・消化器内視鏡センター	日本看護協会 看護総合	8月23日・8月24日
4階西病棟	日本看護協会 成人看護I	9月20日・9月21日
5階西病棟	日本看護協会 成人看護I	9月20日・9月21日
手術室・中材・救急外来	日本手術看護学会九州地方会	9月1日
I C U / 透析看護課	日本透析医学学術集会	6月22日・23日・24日

重点目標・評価と来年度への展開

■「退院支援ナースの育成」と「退院支援カンファレンスの充実」

退院支援チームの立ち上げと活動を積極的に行いました。患者さん・ご家族の意見を反映した退院支援ができることを目標に、「在宅支援」を視野に入れた「退院支援ナース」の育成のため、各部署に1名ずつ看護部主任を専任として配置しました。入院時から、担当看護師とMSWによるスクリーニングを実施し、その後はリハビリスタッフ・薬剤師・管理栄養士・事務スタッフ・訪問看護師・ケアマネージャー（白十字会ケアプランセンター）との退院支援カンファレンスを開催し、早期介入を行っています。退院前には「かかりつけ医」・「在宅医」・「ケアマネージャー」の協力のもと、多職種と退院前カンファレンスを実施でき、在宅希望の患者さん・ご家族の意向にそえるような最善の在宅支援を検討しています。また転院になる場合も、患者さん・ご家族の意向の確認と転院先との情報交換により、スムーズな退院支援を心がけました。



【薬剤部】

「調剤室」、「注射室」、「製剤室」、「医薬品情報室」、「医薬品倉庫」で構成され、救急および急性期医療に24時間対応し、医薬品の適正使用ならびに適正管理に努めています。2005年3月の院外処方せん発行を機に、各領域のスペシャリストを育成すべくチーム医療に傾注してきました。その結果、「日本医療薬学会認定研修施設」、「日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設」、「日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設」として認定されており、各種専門・認定資格を目指しています。

主な施設基準

薬剤管理指導料
 外来化学療法加算1
 無菌製剤処理料1

取得認定資格

日本医療薬学会指導薬剤師 …………… 1名
 日本医療薬学会認定薬剤師 …………… 2名
 日本糖尿病療養指導士(CDE) …………… 3名
 日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
 …………… 1名
 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 …… 4名
 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師 2名
 日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 …………… 1名

職員配置

	常 勤 数	非 常 勤 数
総 数	9人	3人
薬 剤 師	9人	1人
薬剤助手	—	2人

活動状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
薬剤管理指導	実施人数	261	208	159	223	233	230	247	217	154	220	225	203	215.0
	実施件数	394	303	221	329	337	314	355	311	203	314	317	268	305.5
入院時持参薬	鑑別件数	339	313	297	378	360	337	376	349	329	385	315	337	342.9
	金 額	¥1,471,184	¥1,084,471	¥1,371,321	¥1,178,680	¥1,578,718	¥1,260,463	¥1,204,251	¥1,296,482	¥1,142,066	¥1,265,702	¥1,210,841	¥1,290,638	¥1,279,568
抗癌剤無菌調整算定件数	外来(件)	79	84	89	95	77	71	89	66	73	68	60	76	77.3
	入院(件)	35	56	57	44	44	45	40	57	33	53	51	76	49.3
外来(院内)処方枚数		273	295	269	325	342	284	306	275	275	387	331	291	304
外来(院外)処方枚数		5,853	6,157	5,902	6,211	6,185	5,527	6,399	6,012	5,833	5,932	5,563	5,942	5,960
入院処方枚数		3,930	4,164	3,638	3,823	3,964	3,612	4,159	4,068	3,812	3,789	3,674	4,215	3,904

学会・研修会への参加実績

■学会発表

学 会 名	演 題	発 表 者
日本化学療法学会総会	呼吸器感染症患者におけるSBT/ABPCの 先発医薬品と後発医薬品の同等性評価	佐道 紳一
医療薬学フォーラム2012 第20回クリニカルファーマシー シンポジウム	MRSA感染の高度肥満2型糖尿病患者に 血糖管理とリネゾリドが著効した一例	溝口 晶子
	メトトレキサートのLC-MS/MS定量法の開発と 患者血清への適用	曾根本 恵美
第44回九州リウマチ学会	関節リウマチ患者を対象とした メトトレキサートの時間治療	曾根本 恵美
第49回日本糖尿病学会九州地方会	高用量メトホルミンの有効性に関する検討	溝口 晶子
第22回日本医療薬学会年会	高度肥満患者ではリネゾリドの血中濃度が 上昇しない可能性がある	辻 泰弘
	病棟薬剤業務実施加算の導入による 医師・看護師の多職種評価	村上 優美
	消化器がん患者における TS-1隔日投与の安全性評価	池田 祐輔
第74回九州山口薬学大会	MRSA肺炎患者におけるAUC/MICを用いた VCM初期投与設計の有用性の検討	岩村 直矢

■論 文

題 名	掲 載 誌	著 者
Evaluation of the pharmacokinetics of linezolid in an obese Japanese patient	Scand J Infect Dis 44, 626-629	Tsuji Y, Hiraki Y, Matsumoto K, Mizoguchi A, Sadoh S, Kobayashi T, Sakamoto S, Morita K, Yukawa E, Kamimura H, Karube Y

■総 説

題 名	掲 載 誌	著 者
手強い病原菌を制御する 今日の耐性菌事情とその制御-1) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	薬局 63,2515-2519	辻 泰弘
話題のガイドラインUpdate 関節リウマチのガイドライン	月刊薬事 54,2005-2010	曾根本 恵美 辻 泰弘
実践在宅医療入門 在宅医療における薬学管理の実践例-4) 関節リウマチ	薬局 63,2953-2958	曾根本 恵美 辻 泰弘

【放射線技術部】

放射線技術部は、放射線関連検査および治療に携わっている診療放射線技師を中心とした部門です。診断価値の高い画像情報を提供できるよう、各種専門・認定資格を有する診療放射線技師が多数在籍しており、また、患者さんが安心して検査や治療を受けることができるように医療被ばくの低減にも努めています。

主な施設基準

CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算
心臓MRI撮影加算
高エネルギー放射線治療

取得認定資格

放射線取扱主任1種……………3名
放射線管理士……………3名
放射線機器管理士……………3名
医用画像情報精度管理士……………2名
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師……………2名
MR専門技術者……………1名
胃がん検診専門技師……………1名

職員配置

	常勤専従	常勤専任・兼任		非常勤数
		人数	常勤換算	
総 数	14人	2人	1人	—
診療放射線技師	13人	2人	1人	—
事 務（受付）	1人	—	—	—

活動状況

	2008年度件数	2009年度件数	2010年度件数	2011年度件数	2012年度件数
一 般 診 療	39,853	42,364	45,612	48,264	48,202
検 診	13,953	16,197	13,943	10,676	12,798
総 計	53,806	58,561	59,555	58,940	61,000

重点目標・評価と来年度への展開

「顧客満足の視点」においては、独自に行っています患者満足度評価の結果、9.5点以上が10項目のうち8項目でした。これは朝のミーティングを中心とした接遇向上活動が実を結んだものと考えます。今後も気を緩めることなく、よりよい対応ができるよう活動を続けていきます。

「財務の視点」においては、コスト削減および在庫数削減が前年度値を大きく上回っており、毎月の在庫数確認とスタッフへの意識付けが効果的であったと思われます。

「病院機能の視点」では、病院機能評価訪問審査直前に多少慌てた部分もありましたが、自己評価点3.9と満足できるもので、関連部分の審査結果も良好でした。

「学習と成長の視点」では、専門知識の向上として、長崎県以上開催での研修会で5題の研究発表を行うことができました。今後は、個人あるいは単発の発表ではなく、スタッフ一丸となってテーマを探り、技術向上に直接活かせる研究発表を計画的に行っていきたいと思えます。

学会発表実績

日付	学会名	演題	発表者
2012年6月	日本乳癌学会学術総会	マンモグラフィと超音波検査において カテゴリー分類に差異があった症例の検討	横田 かわり
2012年7月	長崎CT・MR研究会	コアベータの使用経験	村井 秀樹
2012年7月	九十九胃透視研究会	当院における胃透視検診撮影について	高見 晋弘
2012年9月	長崎県放射線技師会 県北地区研修会	一般撮影カセット型フラットパネルの 使用経験について	伊藤 淳一
2012年11月	九州放射線医療技術学術大会	カセット型FPDの精度管理の検討	森 健大
2012年12月	九十九胃透視研究会	当院における検診胃透視症例について	高見 晋弘
2013年2月	長崎県放射線技師会 県北地区研修会	3.0TMRI装置導入までの道のり	馬場 隆治
2013年3月	長崎県がん検診胃透視撮影 技術研究会	前壁撮影における工夫について	高見 晋弘
2013年3月	長崎CT・MR研究会	Ingenia3.0Tの使用経験	馬場 隆治

【臨床検査技術部】

「中央分析室」「病理細胞診室」「微生物室」「生理超音波室」の4部署から構成されており、一日も早い患者さんの社会復帰を実現するために、職員一丸となって最新の検査技術・知識を駆使し業務に当たっています。当部門は臨床検査の国際規格であるISO15189:2007「臨床検査室—品質と能力に関する特定要求事項」を、長崎県で第1番目(全国65番目)に取得した認定検査室です。当院、臨床検査技術部で測定・報告された検査データは、国際的にも通用するものです。



ISO 15189認定シンボル

主な施設基準

ISO15189認定施設
 精度保証施設認証 取得施設(JCCLS、日臨技)
 長臨技データ標準化委員会基幹病院

職員配置

	常勤	非常勤(常勤換算)	合計(常勤換算)
医師	1人	—	1人
臨床検査技師	23人	3人(2人)	26人(25人)
助手	1人	1人(0.5人)	2人(1.5人)

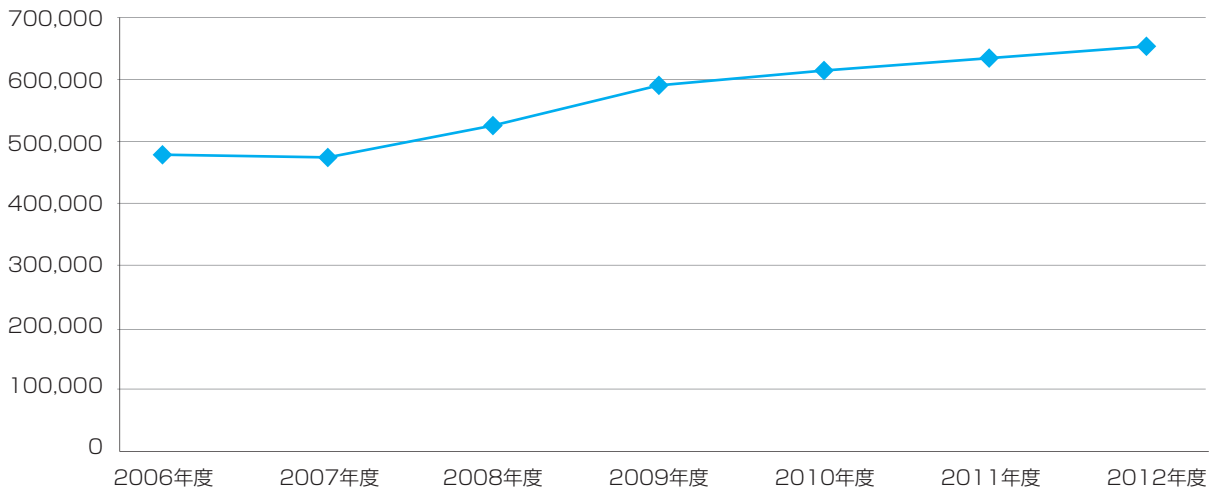
取得認定資格

細胞検査士……………5名
 超音波検査士……………4名(実人数)
 (消化器4名、循環器2名、体表臓器1名、健診1名)
 認定輸血検査技士……………3名
 糖尿病療養指導士……………3名
 血管診療技師……………1名
 認定心電検査技師……………1名
 感染制御認定臨床微生物検査技師……………1名

活動状況

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
病理解剖	11	17	18	14	10	10	21
生化学・免疫	199,936	188,289	207,264	246,041	256,658	264,069	279,393
血液・一般・輸血	189,097	196,602	213,214	236,888	242,807	247,954	259,684
生理・超音波	32,772	34,990	34,056	36,953	34,911	33,639	35,901
微生物	12,023	11,513	9,647	10,652	11,603	12,259	11,988
病理・細胞診	6,700	6,729	6,615	7,128	6,878	6,536	7,121
外来採血	33,464	33,315	35,291	39,358	41,610	43,671	44,923
外注	11,685	11,730	15,226	14,376	16,220	15,050	15,337
合計件数	485,677	483,168	521,313	591,396	610,695	623,176	654,097

◆合計件数



重点目標・評価と来年度への展開

2012年度はISO15189の要求事項に適合する品質マネジメントシステムの構築・維持を重点目標として取り組みました。2013年1月23日・24日に行われた初回サーベイランスにおいて認定継続が承認されました。

今後も認定維持を念頭に置き、業務の品質管理に努めてまいります。また2013年度はマンパワーの更なる充実にも取り組んでいく予定です。

学会発表実績

学会名	演題
第61回日本医学検査学会	当院における高齢者輸血の現状
	肝腫瘍に対するソナゾイド造影超音波の使用経験
第20回日本乳癌学会	乳腺超音波検査とマンモグラフィーにおけるカテゴリー分類が相違した症例の検討
初級者輸血検査研修会	不規則抗体について
第1回九州ICMTを育てる会	認定臨床微生物検査技師試験を受験して
第51回日本臨床細胞学会秋期大会	ISO15189取得に向けての病理検査室の取り組み
日臨技九州支部医学検査学会	当院における糖尿病患者と尿路感染症に関する検討
	試薬管理、機器管理を統合した内部精度管理システムの構築
	肺年齢を用いた検査技師による禁煙指導への介入
第60回日本臨床検査医学会学術集会	ISO15189認定取得への取り組み
長崎県一般検査研修会	尿検査から腎泌尿器以外の疾患を推測する
日臨技九州支部病理細胞診研修会	ISO15189での病理検査業務
第58回日本臨床検査医学会九州地方会	検体受付不可時における要因と検査所要時間の解析
九州予防医学研究会学術大会	肺年齢を用いた禁煙指導について～臨床検査技師の立場から～
長崎県臨床検査技師会総合管理研修会	ISO15189について
長崎県臨床検査技師会学会	心電図にてたこつぼ心筋症が疑われた急性冠症候群について
	血清トリグリセライド値との関連が考えられた白濁(乳び)尿の一例
	低GI米と精白米摂取による血糖値及びインスリンの検討
	当院におけるLDL-C直接法とF式、non-HDLの比較検討
長崎県北地区冬季研修会	認定臨床微生物検査技師について
	認定輸血検査技師について

【臨床工学部】

臨床工学技士は医師の指示のもと、循環・呼吸・代謝機能を代替、補助する生命維持管理装置の操作、保守点検を担当する技術者のことで、ME(Medical Engineer)や、CE(Clinical Engineer)と呼称されています。

近年の高度先進医療の目覚ましい発展と共に医療機器も複雑化、多様化しており、我々、臨床工学技士が医療機器の購入から運用、廃棄まで一貫して管理を行い、患者さんはもちろん、現場スタッフにも安心して使用して頂ける医療機器の提供と共に臨床技術の提供、現場スタッフへの教育などを行っております2009年4月より臨床工学部と部門名を変更し、現在男性8名、女性4名の計12名の臨床工学技士が在籍しており、血液浄化業務、手術室業務、医療機器管理業務、不整脈治療業務、温熱療法業務、睡眠時無呼吸外来業務、医療ガス設備管理業務などを365日24時間体制で行っております。

主な施設基準

医療機器安全管理料I

職員配置

認定資格	体外循環技術認定士	1名
	呼吸療法認定士	1名
	特定化学物質等作業主任	2名
メンテナンス認定	人工呼吸器Servo i/S プリベンティブメンテナンス講習会	3名
	人工呼吸器ピューリタンベネット 700シリーズミドルコース	3名
	人工呼吸器ピューリタンベネット 700シリーズアドバンスコース	6名
	低圧持続吸引器MS-008 メンテナンス講習会	2名
	輸液ポンプTE-131 メンテナンス講習会	5名
	輸液ポンプTE-161S メンテナンス講習会	2名
	シリンジポンプTE-31S/322S メンテナンス講習会	6名
	シリンジポンプSP-115 メンテナンス講習会	1名
	日機装透析液供給装置 メンテナンス講習会	8名
	日機装患者監視装置 メンテナンス講習会	8名
スタッフ構成	臨床工学技士	12名
院内誌 院広報	ME広報部	

活動状況

M	E	機	器	使用件数						
シ	リ	ン	ジ	ポン	1,369					
輸	液	ポ	ン	プ	2,950					
経	腸	栄	養	剤	投	与	輸	液	ポン	17
携	帯	型	輸	液	ポ	ン	プ	6		
S	P	O	2	モ	ニ	タ	ー	98		
モ	ニ	タ	ー	9						
人	工	呼	吸	器	61					
非	侵	襲	型	呼	吸	器	129			
エ	ア	ロ	ネ	ブ	12					
低	圧	持	続	吸	引	機	176			
超	音	波	装	置	311					
合 計									4,848	

透	析	機	器	使用件数					
透	析	供	給	装	置	312			
A	剤	自	動	溶	解	装	置	312	
B	剤	自	動	溶	解	装	置	312	
R	O	装	置	312					
患	者	監	視	装	置	13,043			
合 計									14,291

M	E	機	器	修	理	件	数
ME機器修理件数							277

補	助	循	環	装	置	使用件数
P	C	P	S	3		
I	A	B	P	30		
合 計						33

自	己	血	回	収	装	置	使用件数
自己血回収装置							45

カ	テ	ー	テ	ル	ア	プ	レ	ー	シ	ョ	ン	件	数
カテーテルアブレーション											13		

アフェレーシス関連		
C H D F	症例数	19
	治療件数	89
エンドトキシン吸着療法	症例数	11
	治療件数	15
単純血漿交換	症例数	7
	治療件数	29
免疫吸着療法	症例数	1
	治療件数	2
L - C A P	症例数	10
	治療件数	91
G - C A P	症例数	1
	治療件数	3
腹水濃縮	症例数	1
	治療件数	14
合計	症例数	50
	治療件数	243

温熱治療	
導入数	21
治療件数	303

E C C	使用件数
C A B G	8
A V R	2
M V R + C A B G	1
M V P	1
M V P + C A B G	1
M V P + M a z e	1
A V R + C A B G	3
M V R + T A P	1
L V 血栓除去 + C A B G	1
上行置換	2
弓部置換	5
合計	26

O P C A B	使用件数
	13

神経刺激装置	件数
S E P	7
M E P	4
E E G (8 c h)	2
A B R	1
合計	14

レーザー焼灼術	件数
	12

研修会への参加

学会名
透析液供給装置メンテナンス講習会
患者監視装置メンテナンス講習会
呼吸器(700Advance)メンテナンス講習会
呼吸器(SV-900i/s)メンテナンス講習会
医療ガス保安講習会
透析液水質確保に関する研修会
第3回透析液安全管理責任者セミナー
アブレーション研修会
医療機器安全管理研修会2012
平成24年度医療機器安全管理責任者研修会
第1回長崎県臨床工学技士会循環関連セミナー
第38回日本体外循環技術医学会
第5回長崎PM懇話会
第7回九州臨床工学会
第5回長崎臨床工学会
第39回日本体外循環技術医学会九州地方会大会
第19回日本体外循環技術医学会九州地方会秋季セミナー
第22回日本臨床工学会
第61回九州消化器内視鏡技師研究会
第57回日本透析医学会学術集会
第5回県北周術期管理懇話会
第14回日本医療マネジメント大会
当院における安全広報活動について
第1回長崎県臨床工学技士会循環関連セミナー
当院における人工心肺安全装置について
長崎県医療福祉産業促進に向けたセミナー&医療福祉現場のニーズ発表会
医療現場が求めるもの

重点目標・評価と来年度への展開

■救急外来業務への参入

社会医療法人移行に伴い、救急受入れが責務となり、重症患者の増加が考えられます。医療機器の使用も多種多様となり、現在行っている業務の延長線上に必ず臨床工学技士の救急現場への参加が必要と考えます。医師、看護師の業務分散化、軽減化、効率化に積極的に協力します。

■待機業務から当直体制へ

DPC導入に伴い、医療専門職間の技術提供、多職種協働が重要になっています。医師には医師にしか、看護師には看護師にしかできないことを行い、労働生産性を向上しなければなりません。多職種協働により、医療における付加価値を提供したいと考えています。

■人材確保と人材育成

業務量増加による人員の確保が必要です。新規業務拡大に向け、優秀な人材の確保や人材育成に取り組みます。

【リハビリテーション部】

長崎県下の急性期病院の中で最も多いスタッフ数を誇り、安全で効果的なリハビリテーションを365日体制で提供しています。対象患者も術後早期から緩和医療まで幅広く、「いつでも、どこでも、誰にでも」をモットーに必要な患者さんに十分な量のリハビリテーションを実施しています。

主な施設基準

- 心大血管疾患リハビリテーション料 (I)
- 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
- 運動器リハビリテーション料 (I)
- 呼吸器リハビリテーション料 (I)
- がん患者リハビリテーション料

職員配置

	常勤
理学療法士	21人
作業療法士	14人
言語聴覚士	5人

取得認定資格

- 福祉住環境コーディネーター2級……………13名
- 福祉用具プランナー……………6名
- 認知神経リハ ベーシックコース修了……………5名
- 認知神経リハ アドバンスコース修了……………3名
- 学習療法士1級……………3名
- 介護支援専門員……………2名
- 認定理学療法士(循環)……………1名
- 認定理学療法士(呼吸)……………1名
- 認定理学療法士(脳卒中)……………1名
- 認定言語聴覚士(摂食嚥下領域)……………1名
- 心臓リハビリテーション指導士……………1名
- 呼吸療法認定士……………1名
- AKA博田法認定指導者助手……………1名
- ボバース講習会イントロダクトリーモジュール修了…1名
- ボバース講習会ヒューマンムーブメント修了……………1名
- コアコンディショニングBASICインストラクター……………1名
- メンタルヘルスマネジメント3種……………1名

活動状況

部門別実施件数

単位：件

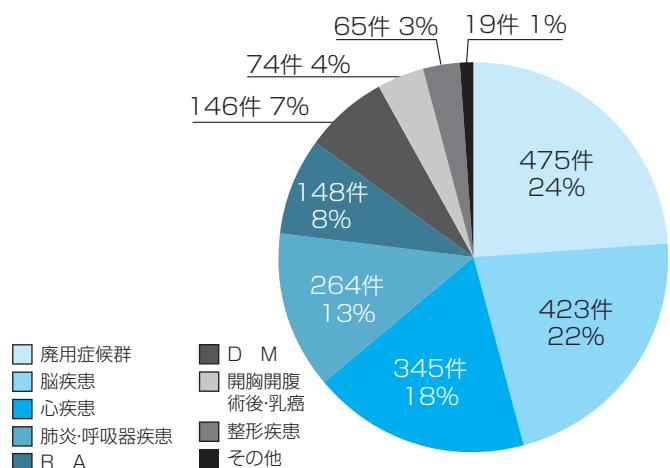
		2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
理学療法	入院	23,133	27,382	30,576	31,149	30,556
	外来	982	1,166	1,209	1,323	1,077
作業療法	入院	19,965	21,039	23,333	24,470	25,281
	外来	341	301	238	259	533
言語聴覚療法	入院	7,239	9,087	9,593	9,844	8,484
	外来	106	71	66	136	328

疾患別内訳

単位：件

	入院	外来
廃用症候群	475	7
脳疾患	423	22
心疾患	345	5
肺炎・呼吸器疾患	264	3
R A	148	7
D M	146	0
開胸開腹術後・乳癌	74	0
整形疾患	65	30
その他	19	2
合計	1,959	76

疾患別内訳(入院)



重点目標・評価と来年度への展開

2013年度は早期離床プロジェクトと銘打って、これまで以上に積極的に離床を促進する予定です。

具体的には摂食嚥下への早期介入や患者さん一人当たりの訓練時間の延長を図り、ADL改善および効率の指標となるFIM gain, FIM efficiencyの向上を目指していきます。

学会発表実績

学 会 名	演 題
第2回日本認知症予防学会学術集会	アルツハイマー型認知症とレビー小体型認知症の早期鑑別 -MMSEにおける3単語遅延再生と五角形描画の乖離-
第47回日本理学療法学会学術大会	佐世保中央病院におけるがん患者リハビリテーションの取り組みと今後の課題
第21回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	佐世保中央病院AMI連携パスにおけるリハビリテーションの現状と今後の課題 -連携医療機関向けアンケートを実施して-
第17回日本緩和医療学会学術大会	がん患者の可能活動状況と生存期間について
第18回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	AMI後の運動療法について連携医療機関へのアンケートより見えてきた課題
リハビリテーション・ケア合同研究大会 札幌2012	急性期病院におけるADL拡大を目指した「できるFIM」の活用と今後の課題と対策
第15回日本医療マネジメント学会学術総会	リハビリテーション部の安全活動の充実を目的とした事例報告数増加への活動 佐世保中央病院におけるリハビリ部・臨床工学部の吸引業務導入について
第2回 日本言語聴覚士協会九州学術集会	前頭側頭葉変性症への言語聴覚療法
長崎呼吸ケア研究会	佐世保中央病院における吸引業務の導入について
第34回九州理学療法士・作業療法士合同学会	佐世保中央病院呼吸療法サポートチームの取り組み
佐世保下肢装具ネットワーク	脳出血左片麻痺患者に対する装具療法～維持期の立場から～ 左被殻出血を呈した症例に対する長下肢装具の使用経験
第20回長崎県作業療法学会	アルツハイマー型認知症とレビー小体型認知症の早期鑑別 -MMSEにおける3単語遅延再生と五角形描画の乖離-

講演・学術活動

学 会 名	演 題
長崎情報ビジネス専門学校 介護職員基礎研修	リハビリテーション論
長崎県腎臓病患者連絡協議会 第29回研修会	透析患者のリハビリの必要性
県北循環器連携パス学術講演会	当院における心臓リハビリテーションと連携パス
長崎県理学療法士協会 新人研修会	リスクマネジメント
糖尿病コメディカル研修会(平戸・対馬)	誰にでも気軽にできる運動って?
二次予防事業実施施設事業所連絡会	認知症センターの紹介と認知症予防について
口のリハビリテーション研究会	言語聴覚士からみるのみこみ
青空いきいきウォーキングショートレクチャー	ロコモティブシンドローム めざせ健康ボディ!!みんなで体験!!太極拳!!
ドリームケア職員研修会	介護とは何ぞや。介護に必要な知識とその実際 -起立・移乗- 介助に必要な知識と技術 車への乗降介助方法 介助びかいちコンテスト(介助実技試験)
白十字会訪問看護ステーションスタッフ向け勉強会	FIM勉強会
学会賞受賞記念学術講演会	アルツハイマー型認知症とレビー小体型認知症の早期鑑別 -MMSEにおける3単語遅延再生と五角形描画の乖離-
SRST勉強会	体位ドレナージと排痰手技
関節リウマチラダートピックス	リハビリテーションとは
皮膚ケア認定ナース向け褥瘡勉強会	ポジショニング指導
リウマチカンファレンス	関節リウマチとリハビリテーション～OTとしての視点から～
佐世保地区身障系OT勉強会	がんリハビリテーション

【栄養管理部】

主な業務は「栄養指導」、「栄養管理」、「給食管理」です。

栄養指導では糖尿病センターでの栄養看護外来を中心に、外来、入院患者さんに対して病態別に栄養指導を行っています。また集団栄養指導として糖尿病教室を毎週月曜日から金曜日まで開催しています。

栄養管理では入院時の栄養スクリーニングから定期的な栄養評価を通して、食事内容の検討やNST活動などを行っています。

給食管理については給食委託会社と協力し、イベント食としてバイキングやコース料理(和・洋・中)の提供を行っています。

主な施設基準

入院時食事療養費(I)

職員配置

	常勤
管 理 栄 養 士	5人

取得認定資格

管理栄養士……………5名
 日本糖尿病療養指導士(CDE)……………3名
 病態栄養学会認定病態栄養専門師……………1名
 食生活アドバイザー……………1名
 調理師……………1名

活動状況

■ 栄養指導、療養支援・相談、栄養介入件数

入院個別栄養指導	321件/年	
外来個別栄養指導	811件/年	
集団指導(糖尿病教室)	加算件数	181件/年
	参加延数	1,660人/年
糖尿病透析予防指導	124件/年	
栄養看護外来(療養支援・相談)	4,295件/年	
栄養介入件数	278件/年	

■ イベント食開催および参加患者数

開催数：9回
 参加数：285名

■ 給食内訳

一 般 食	90,777食/年	34.5%
特 別 食	110,653食/年	42.1%
経 管 栄 養	12,853食/年	4.9%
そ の 他 (外泊・検査欠食など)	17,940食/年	6.9%
絶 食		11.6%

評価と来年度への展開

早期社会・在宅復帰のためには、栄養による介入も重要だと考えています。当院では病棟で定期的に栄養評価が行われています。栄養部ではその結果を受け、食事内容の検討を中心に他のコメディカルと協働して栄養介入を行い、2011年度の介入数178人に対し、2012年度は278人に介入しました。2013年度からは管理栄養士が3名増員となりますので、今後は各病棟に管理栄養士を配置し、今までよりも早期の介入を目指し取り組んでいきたいと考えています。

栄養指導では2012年度から新設された「糖尿病透析予防指導」について、8月より実施・算定を行うようになりました。医師・看護師らと協働して計画的に指導を行うとともに、今後は評価していくことも重要だと考えています。

給食に関しては2012年3月より温冷配膳車を導入しました。また2013年度からは給食委託会社も変更となります。

聞き取りによる患者満足度調査などを基に食事評価を行いながら、より良い食事の提供を目指していきたいと思っています。

学会・研修会への参加実績

日付	学会名	参加人数
4月	県北在宅褥そうセミナー	1名
5月	糖尿病学会年次学術総会	2名
5月	県北NST研究会	3名
6月	長崎県糖尿病コメディカル研修会	3名
10月	糖尿病学会九州地方会	4名
12月	県北NST研究会	5名

【感染制御部】

病院は「病原菌を持った人」と「病気になるって免疫が落ちている人」が集中する特殊な環境のため、何も対策がとられなければ感染は起こって当然という環境にあります。感染制御部はこうした危険性を予測し、「病院に関わるすべての人を医療関連感染から守る」ことをモットーに、調査監視を行い、最新の感染防止技術の導入と徹底、感染防止教育などを行っています。

2007年6月1日に感染制御部が新たな部門として設立されました。2011年11月に室長が退職され、CNIC(Certified Nurse Infection Control:感染管理認定看護師)の専従の一人体制でしたが2012年9月より事務員が兼任で配置されるようになりました。多数のICD(Infection Control Doctor:感染制御医)や薬剤師、臨床検査技師、法人内認定感染管理ナース、感染対策委員会メンバーと連携をとって、感染対策を推進しています。

主な施設基準

感染管理加算1
地域連携加算

職員配置

	常勤
専従看護師	1人
事務および兼任スタッフ	4人

取得認定資格

感染管理認定看護師・第二種滅菌技師

活動状況

研修会の開催(一部紹介)

実施月	実施部署・対象	研修内容	講師	参加人数
4月	新任医師	新任医師感染対策オリエンテーション	奥田 聖子	9名
	新入職員全員	院内感染について	奥田 聖子	72名
	看護部新人	院内感染防止対策について・パート1	奥田 聖子	33名
5月	院内・院外	感染対策の基本!ラウンド時のポイントを知る!	奥田 聖子	86名
	看護補助者	スタンダードプリコーション	奥田 聖子	30名
6月	新任医師	新任医師感染対策オリエンテーション	奥田 聖子	1名
	全職員	合同研修会:針刺し事故対策について	木下 昇	307名 339名
7月	看護部新人	院内感染防止対策について・パート2	奥田 聖子	27名
	看護部中途採用者	中途採用者感染対策研修	奥田 聖子	4名
8月	こども探検隊参加者	病院こども探検隊-手洗い博士になろう-	奥田 聖子	27名
9月	コメディカル中途採用者	感染対策について	奥田 聖子	4名
10月	ICNJ	感染管理ベストプラクティス長崎県の取り組み	奥田 聖子	82名
	法人内認定看護師	法人内認定看護師感染管理ナース交流会	奥田 聖子	16名
	全職員	合同研修会:微生物検査について ~冬季流行ウイルス感染症を含めて~	川口 亮	292名 357名
11月	委託会社	感染対策に関するビデオ研修	木下 昇	86名
	長寿苑	食中毒・インフルエンザ・ノロウイルス対策	奥田 聖子	59名
	中途採用者	中途採用者感染対策研修	奥田 聖子	4名
12月	看護部新人	新人看護師8ヶ月目感染対策研修	奥田 聖子	33名
	全職員	ノロウイルス嘔吐処理	奥田 聖子	1,208名
2月	長崎県老人保健施設看護・介護部会県北ブロック	老人保健施設で知っておきたい感染対策	奥田 聖子	34名
3月	全職員・院外医師	第151回経過報告会プログラム	奥田 聖子	65名
	新人	新人看護師1年目卒業チャレンジ	奥田 聖子	28名

■2012年度ベストプラクティスの作成

- ①エアロガーディアン取り扱い
- ②在宅での吸引
- ③流水と石鹸での手洗い

■感染管理地域連携相互チェック4回**■感染防止対策加算を取得している
保険医療機関とのカンファレンス4回****■ワクチン接種の推進**

(HBV・入職時の流行性四疾患の抗体価の確認)

■インフルエンザワクチン接種率95%**学会発表実績**

日 付	学 会 名
2012年4月21日	近畿ベストプラクティスセミナー (大阪) 座長
2012年10月6日	ICNJ研修会 発表
2012年10月27日	県北滅菌医療材料研修会 参加
2012年11月16日	感染管理セミナー(東京) 参加
2012年12月8日	Meet The Expert 参加
2012年3月1日・2日	環境感染学会 発表

重点目標・評価と来年度への展開

2013年度も研修会を充実させ15回以上の研修会の実施を予定しています。

HBワクチンの接種の推進、及び、インフルエンザワクチンの接種率90%以上など感染が起りにくい環境の維持に努めます。

【医療安全管理部】

専従医療安全管理者を配置し、院長直轄の独立した部門として組織内に位置します。院内で発生した事例は、基本的に当該部署が初期対応し、その内容によっては医療安全管理部が検証・共有・支援を行います。

主な施設基準

医療安全対策加算1

取得認定資格

医療安全管理者……………1名

職員配置

医療安全管理部	常勤専従	常勤専任・兼任		非常勤数
		人数	常勤換算	
総数	2人	1人	0.5人	
診療放射線技師		1人	0.5人	
看護師 (専従医療安全管理者)	1人			
事務員	1人			

活動状況

- ①医療安全教育・研修:「公開研修」および「新入職員・中途採用者対象安全研修基礎I～Ⅲ」開催
- ②安全教育教材の作成:共有事例に関するe-learning教材の作成
- ③合同研修会の開催 :第7回開催(6月9日)、第8回開催(11月20日)
- ④白十字会グループ安全管理協議会の企画・運営・実施

重点目標・評価と来年度への展開

- ・患者さん(ご家族)への安全安心情報伝達
- ・事例発生によるリスクコストの現状把握
- ・職員教育の充実
- ・職員の安全に対する意識向上への取り組み
- ・院内ラウンドによる現状把握

学会発表実績

学 会 名
国際予防学リスクマネジメント連盟主催 医療安全教育セミナー2012.夏
医療事故・紛争対応研究会主催 人材育成講座
日本医療機能評価機構 認定病院患者安全推進協議会 2012年度 IT化・情報機器セミナー
日本医療マネジメント学会主催 第14回 医療マネジメント学会学術総会
医療の質・安全学会主催 第7回 医療の質・安全学会学術集会
日本看護協会主催 九州地区リスクマネージャ交流会
全日本病院協会主催 医療安全対策講習会
医療事故・紛争対応研究会主催 年次カンファレンス
日本医療機能評価機構 認定病院患者安全推進協議会 全体フォーラム

講演(講義)活動

会 場	演 題
九州文化学園高等学校衛生看護科専攻科	(講義) 医療安全
九州文化学園高等学校衛生看護科	(講義) 医療安全
医師会看護学校・卒後安全研修	(講義) 医療安全研修
医師会看護学校・実習前安全研修	(講義) 医療安全研修
長崎大学シーボルト校	(講義) 看護管理・安全
福岡済生会病院 看護部安全研修	(講義) 危険予知訓練
のぼり病院(鹿児島市)	(講演) 「組織の中の医療安全」
上五島病院(長崎市)	(講義) 危険予知訓練
貞松病院(大村市)	(講演) リスク感性を磨く～危険予知訓練をマスターしよう!～
田川新生病院(田川市)	(講演) 安全研修「井上病院が目指す組織の医療安全」
平成24年度日臨技全国研修会医療安全管理者研修会	(講演) 医療安全管理者としての臨床検査技師の役割
長崎県言語聴覚士会主催学習会	(講演) STがかかわる医療安全 ～もう一度事例を考えてみよう～
長崎県看護協会	(講義) リスクマネージャ研修1 危険予知
石川県自治体病院協議会研修会	(講演) 医療安全対策～始まり・今・これから～
総合メディカル会員セミナー(長野・北九州・鹿児島・福岡・宮崎・大宮市)	(講義) 医療安全と教育
総合メディカル会員セミナー(高知市)	(講演) 多職種で取り組む医療安全

【臨床研究管理部】(治験管理室)

治験および臨床研究に係る業務を管理・支援し、治験および臨床研究の適正かつ円滑な実施を図ること目的に2011年4月1日に新設されました。

治験管理室における治験事務局業務(治験審査委員会事務局を兼ねる)および治験コーディネーター(CRC)業務に基づいて治験を管理・支援する機能のほかに、臨床研究を管理・支援する機能を有し、治験による先端医療の提供・次世代の新薬開発への協力および臨床研究への関わりを通じて、社会医療法人として社会的責任の一部を果たすため日々活動しています。

職員配置

	職 種	常 勤	非 常 勤	派 遣
臨床研究管理部	薬剤師	1人		
	助 手		2人 ^(※1)	
治験管理室	C R C			6人 ^(※2)

(※1)うち1名は、診療録代行入力担当を兼務

(※2)CRCは、SMO(治験実施施設支援機関)との契約に基づく派遣。(治験事務局業務担当を含む。)

取得認定資格

JASMO公認CRC^(※3).....5名

(※3)JASMO公認CRCは、日本SMO協会が優れた資質向上を目的として、認定試験に合格したCRCを臨床試験のスペシャリストとして公認するものです。

活動状況

	疾患領域	契約試験数			契約症例数			実施症例数		
① 治験	リウマチ膠原病	継続	23	計30	継続	143	計174	継続	120	計134
		新規	7		新規	31		新規	14	
	糖尿病	継続	3	計5	継続	23	計33	継続	22	計30
		新規	2		新規	10		新規	8	
	消化器疾患	継続	2	計2	継続	14	計14	継続	9	計9
		新規	0		新規	0		新規	0	
		合 計	37		合 計	221		合 計	173	
② 新規治験スタートアップ会議の開催件数					計4回(RA:2回、DM:2回)					
③ RA臨床研究のデータマネジメントに関する実績					5研究分(延患者数344症例)					
④ 医薬品製造販売後調査(PMS)などの新規契約件数					年間20件					
⑤ 治験審査委員会・倫理委員会の活動状況					各委員会の項を参照					
⑥ 臨床研究管理部通信(院内報)の発行実績					年間12号(毎月1回)発行					

■ 臨床研究管理部の業務

1. 治験の管理および支援に係る業務
2. 臨床研究の管理および支援に係る業務
3. 医薬品製造販売後調査 (PMS) の管理および支援に係る業務
4. 治験審査委員会の運営に係る業務
5. 倫理委員会の運営に係る業務
6. 臨床研究の各種指針の教育・啓蒙に係る業務
7. その他の業務

■ 治験実施医療機関の要件 (GCP省令より)

- ※当院は、この要件を満たしています。
- ・十分な臨床観察・試験検査を行う設備・人員を有していること
 - ・緊急時に被験者に対して必要な措置を講ずることができること
 - ・治験審査委員会が設置されていること
 - ・治験を担当する医師、薬剤師、看護師などの必要な職員が十分に確保されていること

■ 研修会の開催実績

2012年12月25日
第2回学会賞受賞記念学術講演会

重点目標・評価と来年度への展開

■ 重点目標・評価

今期の治験 (継続+新規) 契約試験20件と契約症例200例を維持するとともに、新規治験でスタートアップ会議を開催し、治験における多職種連携を主導しました。また、GCP省令改定に伴う治験に係る医療機器の精度管理では、2012年度より臨床研究管理部にて予算確保を行い、依頼者が求める信頼性を確保する体制を確立しました。さらに、RAの臨床研究におけるデータマネジメント機能を育成しました。以上の目標を問題なく達成しました。

■ 来年度への展開

来期の治験 (継続+新規) 契約試験20件と契約症例200例を維持するとともに、RA領域における多施設共同長期臨床研究に参画し、RAの最新治療の安全性・有効性に関するアウトカム研究に貢献していきます。また、部門内スタッフで研鑽し、統計解析ソフトGraphPad Prismの基本操作をマスターします。

学会・研修会への参加実績

ARD ^(*4)	Impact of tocilizumab therapy on antibody response to influenza vaccine in patients with rheumatoid arthritis (11.Aug.2012)
	Pneumococcal polysaccharide vaccination in rheumatoid arthritis patients receiving tocilizumab therapy (23.Jan.2013)

(*4) ARD (=Annals of the Rheumatic Diseases) は、リウマチならびに結合組織疾患全般を対象としたオリジナル論文を掲載するEULAR公式機関誌です。

■ 研修会への参加実績

日 付	研 修 会 名
2012年9月1日・2日	CRCと臨床試験のあり方を考える会議2012
2012年10月26日	平成24年度GCP研修会 (PMDA主催)
2012年11月17日	第21回日本SMO協会CRC継続研修
2012年11月24日	治験事務局セミナー2013 (日本病院薬剤師会主催)
2013年 2月23日	第22回日本SMO協会CRC継続研修

【事務部】

◎医療事務課

「病院の顔」として、最初(受付)と最後(会計)に患者さんと接し、病院の印象を左右する部署であり、常に「笑顔と真心」を忘れずに患者さんと接するように心がけています。また、診療費請求についても、迅速かつ正確な請求が出来るように、日々、努めています。

2012年度目標は、『現場進出』であり、診療部門との連携を深め、患者さんのニーズに合わせた対応を目指し、診療現場におけるより良い環境作り的一端を担うことを目標としています。

職員配置

	常勤	非常勤
事務職	35人	9人

取得認定資格

- ホスピタルコンシェルジュ(3級).....10名
- 医療事務課：診療情報管理士.....8名
- 医療秘書技能検定(2級).....5名
- 医療秘書技能検定(3級).....6名
- 診療報酬請求事務能力認定試験.....3名
- 医療メディエーター.....1名

活動状況

各系の活動		
外来医事係	受付	患者さんの状況を確認しながら、迅速かつ的確な受付を行っています。
	コールセンター	「声で笑顔を伝える」をモットーに、診療科と連携を取り予約受付を行っています。
	オペレーター	外来患者さんの診療費計算を迅速かつ正確に行っています。
	会計	窓口での支払いや医療費相談の対応、日々の会計管理を行っています。
	書類	書類作成システム(パピルス)を活用し、書類依頼・発行・交付業務を行い、各種公費申請の手続きを行っています。特定疾患更新時期には約700件の処理を行っています。
入院医事係	未収	請求・入金・未払金額の管理をし、未払者の対応を行います。また、入院時預り金の管理、入院予定患者さんへの高額療養費や限度額認定証等の情報提供を行っています。
	入院医事係	退院前日の患者さんへ概算入院診療費のお知らせを行います。また、入院中の患者さんに対し限度額適用認定証の説明や、診療費に関してのご相談も随時行っています。DPCに係るデータの提出を厚生労働省へ行っています。
診療情報管理課	院内外の各種調査やアンケートに対するデータ提出や、原価計算を用いたクリティカルパスの検証を行っています。	



保険診療説明会3月開催の様子



3月発行:「笑」6号

課内におけるワーキンググループ	
サービス委員会	職員間の感謝の気持ちを伝える「和みレター」を始めとし、朝礼時の接遇練習や、クリスマスコンサートなどの季節ごとの行事にも力を入れ、患者サービス向上や職員間のコミュニケーションを円滑にするために活動を行っています。
査定委員会	レセプトのチェック漏れを防ぐ事を目的とし、査定結果を分析し、分析結果や注意事項を課内で共有する活動を行っています。
SDS委員会	正確な請求を行うために、月ごとに請求誤りの報告をし、個別指導や年2回の勉強会を行っています。
メニュー委員会	主な検査料金などを記載した「診療費料金表」を各診療科に常備し、その作成・更新を行っています。診療科などの要望に応じて、随時、診療費料金表を追加・修正しています。

重点目標・評価と来年度への展開

■広報誌発行

職員に、医療制度や診療報酬点数に関する情報提供を行い、医療事務課の活動内容を周知するために2012年度は広報誌を4回発行しました。

■保険診療説明会(全職員対象)

当院は「臨床研修指定病院」です。臨床研修病院入院診療加算を算定するにあたり、全職員を対象に年2回以上「保険診療に関する講習」を開催することが義務付けられています。本年度は、5月24日・3月25日に開催しました。

■病棟訪室・退院支援カンファレンスへの参加

患者さん・ご家族の不安解消に少しでも繋がればとの思いから新たに『ご入院された患者さんの元へ患者支援課長ならびに医療事務課職員が訪室し、高額療養費の案内や療養中の質問・相談などをお聞きすること』に取り組んでいます。また、看護部ならびに他職種協働で開催される退院支援カンファレンスにも参加しています。

2013年度は2012年度と同様に診療部門

との連携を深め、診療報酬における様々な情報提供はもちろん、事務職の専門知識を活かし診療部支援ができる存在であり続けるように努めます。



◎医局秘書課

電話交換、医局受付、病歴管理(物的)、医療情報プラザ(図書室)運営、ドクター秘書業務、糖尿病センター秘書業務、安全管理部・感染対策室補佐業務を行っております。医療情報プラザは患者図書室として、患者さんがご自分の病気の理解を深め、治療に参加していただくことをコンセプトに、患者さん向けの医学書を設置しております。

また、当部署は医師の様々なサポートをしております。特にドクター秘書は、医師の医療行為に付随する事務的作業のほとんどを担っており、医師の負担軽減に貢献しています。

主な施設基準

医師事務作業補助体制加算15対1

職員配置

	常勤	パート職員
事務職	5人	2人
事務職 (医療情報プラザ)		1人
ドクター秘書	1人	29人
計	6人	32人
総数	38人	

取得認定資格

ドクターズクラーク……………14名
 医療事務管理士……………4名
 ホスピタルコンシェルジュ(3級)……………1名
 秘書技能検定(準1級)……………1名
 秘書技能検定(2級)……………21名
 秘書技能検定(3級)……………3名

活動状況

■交換業務

2012年度着信本数(平日のみ)	52,633件
お待たせコール作動本数 (5回コールにて作動)	520件

■ドクター秘書業務

退院サマリー	3549件/年
書類・診断書	5659件/年
症状詳記	375件/年
NCD(手術登録)	726件/年



診療補助(電子カルテの代行入力)の様子

■医療情報プラザ

利用状況

利用者数	5,012人
貸出数(医学書)	526冊
貸出数(一般図書)	1,726冊
プラザ用医学書購入数	23冊

開館：平日 9:00～17:00

第3土曜日 9:00～12:00

医療情報プラザでは、来館が困難な入院患者さんやご家族にもご利用いただけるよう、本のデリバリーサービスを行なっています。また、来館者にくつろげる環境を提供するために、季節を感じられるような飾り付けなども工夫しています。



今年度の重点目標・評価と来年度への展開

2012年度は、ドクター秘書の医療知識向上を目的に、「医学の基礎」をテーマに初めて院内勉強会を実施しました。2013年度は、他部門の協力を得て、臨床検査、放射線、リハビリテーションなどのレクチャー及び研修を行い、幅広い知識の習得に努めたいと考えています。

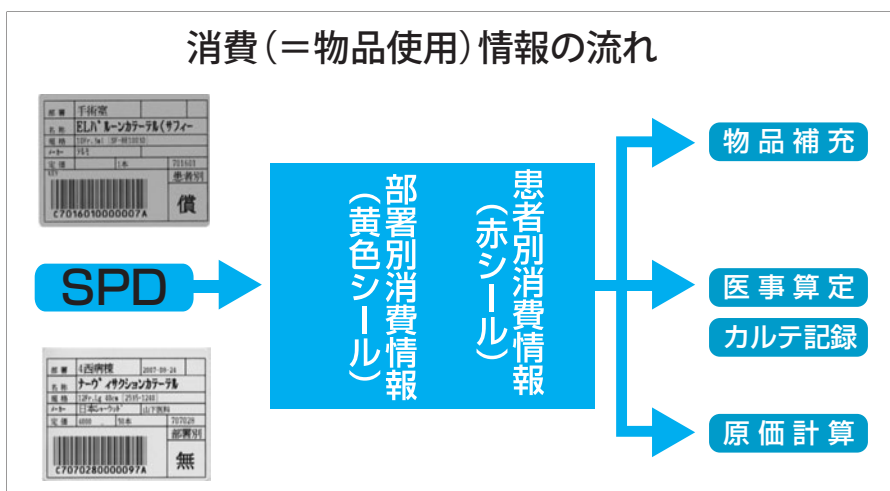
◎資材課

法人内(佐世保地区)で使用する全ての医療材料・一般消耗品・印刷物・医療機器等の購入(いわゆるバイヤー業務)を担当している部署です。法人唯一の購買担当・物品管理部署として、正確かつ迅速な物品供給業務を行っています。

また、適正なコスト管理・在庫管理にも力を入れており、業務の合理化およびコスト削減、コストパフォーマンスの向上を推進しています。

当法人ではSPDシステムを導入しており、物品や業務の標準化・物流の効率化を図り、購買情報・在庫情報・消費情報等の一元管理が可能となっています。SPDシステムは2003年より導入し、当時は外部委託運用なしの院内SPDで既存ベンダーパッケージを採用していました。

その後、電子カルテ一体型のSPDシステムの開発を模索し、2007年に自社開発の新電子カルテシステム「HOMES」と連動した独自の新SPDシステムが稼働しました。新SPDシステムでは、消費(物品使用)情報を登録する事で、物品補充だけではなく電子カルテへの記録、医事算定、原価計算との連動が可能となっています。



職員配置

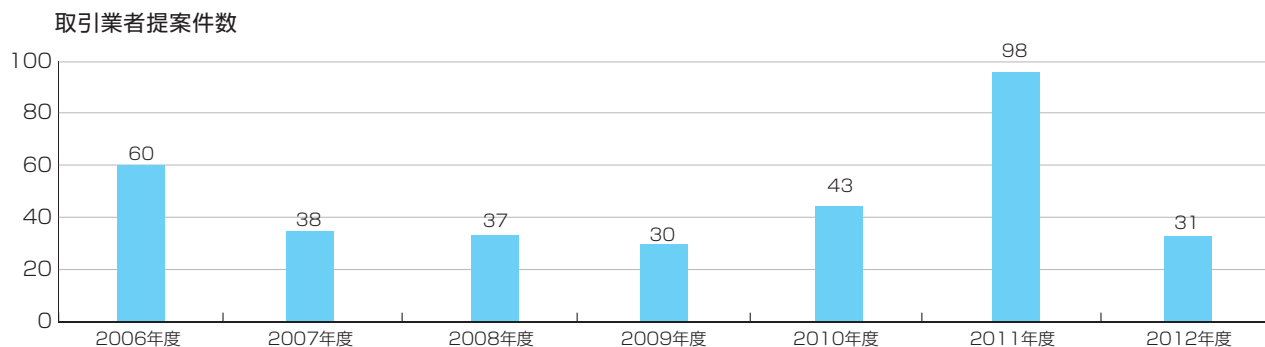
資材管理本部長	副 主 任	課 員	合 計
1人	1人	4人	6人

活動状況

■トータルコストダウン活動について

2002年度よりトータルコストダウン活動を継続的に推進しています。しかし、資材課職員による交渉のみではコストダウン方法に限界があるため、取引業者からの新商品・同種同効品提案や、職員からの提案を広く受け付けています。

職員や取引業者を巻き込んで「良いものをより安く」調達する事により、より高いコストパフォーマンスを追求しています。これまでの取引業者からの提案件数およびコストダウン実績は以下の通りとなっています。



■コストダウン実績

単位：円

	資 材	施 設	合 計	目 標	達成率
2002年度	20,192,504	4,448,669	24,641,173	20,000,000	123%
2003年度	11,610,577	1,150,060	12,760,637	12,000,000	106%
2004年度	7,455,839	4,984,400	12,440,239	8,000,000	156%
2005年度	22,234,222	13,579,270	35,813,492	12,000,000	298%
2006年度	29,001,476	1,429,850	30,431,326	10,000,000	304%
2007年度	11,494,506	1,313,200	12,807,706	10,000,000	128%
2008年度	5,253,240	2,405,000	7,658,240	7,000,000	109%
2009年度	7,379,245	0	7,379,245	6,000,000	123%
2010年度	6,133,323	0	6,133,323	6,000,000	102%
2011年度	7,435,757	0	7,435,757	6,000,000	124%
2012年度	5,687,719	0	5,687,719	5,000,000	114%
合計	133,878,408	29,310,449	163,188,857	102,000,000	162%

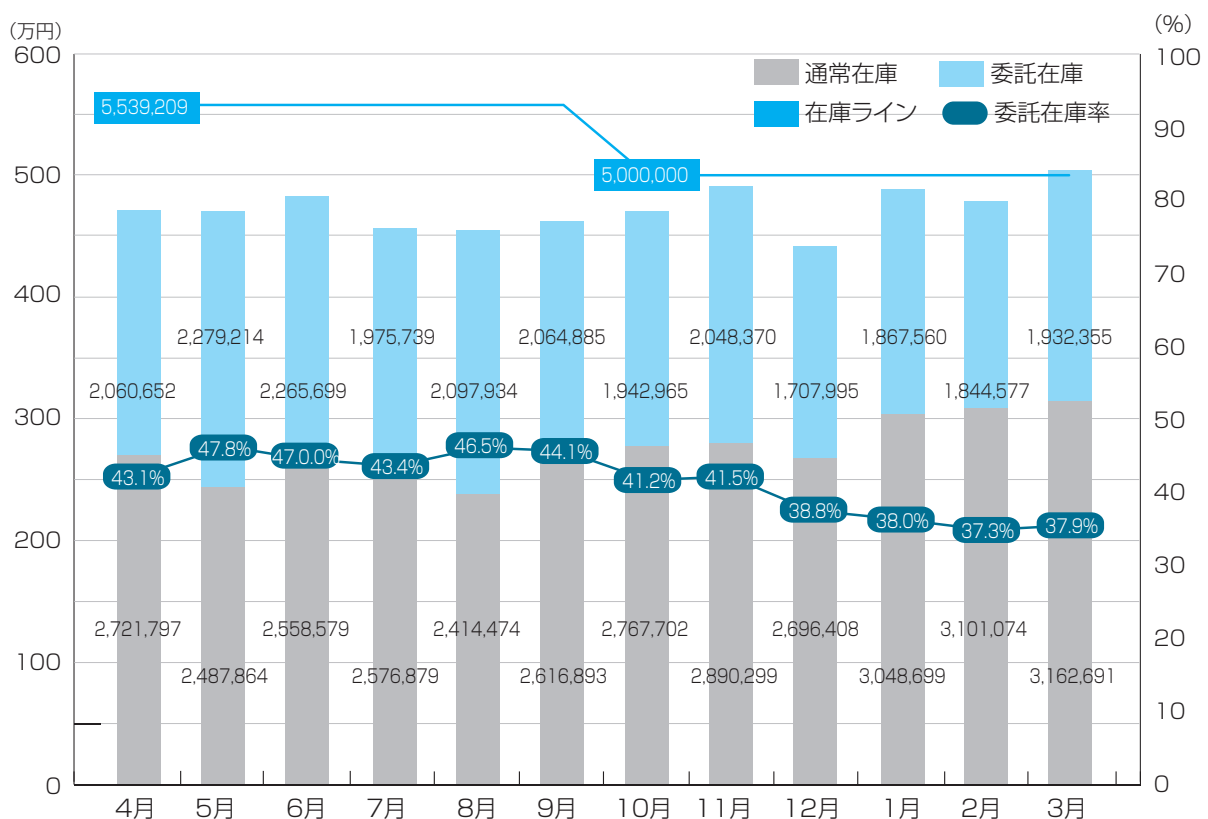
重点目標・評価と来年度への展開

■内視鏡室の在庫管理

2011年度に引き続き2012年度も内視鏡室の在庫管理を重点目標としました。2011年度は委託在庫率に重点を置いていましたが、2012年は在庫の上限を仮設定し、毎月の在庫推移に注目しました。なお、在庫上限は4月～9月までは前年度期末在庫、10月以降は500万円としました。4月から翌2月にかけては上限を上回ることなく推移しましたが、3月に若干ですが上限を超えました。

2013年度は部門BSCに「内視鏡室総在庫500万円以下」の目標を掲げ、内視鏡室と在庫金額を共有し重点課題として取り組みます。

■内視鏡室在庫推移表(月別)



◎施設課

患者さんや職員の方々が安全に過ごしていただけるよう美観や環境の改善から災害予防などの安全対策まで院内外設備（電気設備、空調設備、衛生設備、防災設備）等の維持管理及びメンテナンス業務を行う他、公用車や送迎等を管理する車両管理を業務としています。

職員配置

	本部長	課長	係長	主任	課員
本部	1人	1人	—	—	—
中央管理室	—	—	1人	1人	4人
車両管理室	—	—	—	—	2人

活動状況

■設備管理

院内外すべての設備機器の管理およびメンテナンス業務を行い、常に監視し不具合等の早期発見に努めています。また地球環境を意識した省エネ機器の新規導入や適正な設備運用にも心がけています。



人感センサーを併用したLED照明の導入

■防火・防災・防犯対策

防火対策：防火管理委員会の設置、防火設備、通報設備、避難設備、消火設備、防煙シャッター設備、防火（避難）訓練の実施

防災対策：地震感知装置、転落防止措置、地震訓練の実施、大規模災害受入訓練の実施 BCP（事業継続計画）

防犯対策：ガードマン（夜間）の配備、防犯カメラ、電子施錠

※詳しい内容は、P167防火管理委員会をご参照ください。

■環境対策

1.インフルエンザ対策

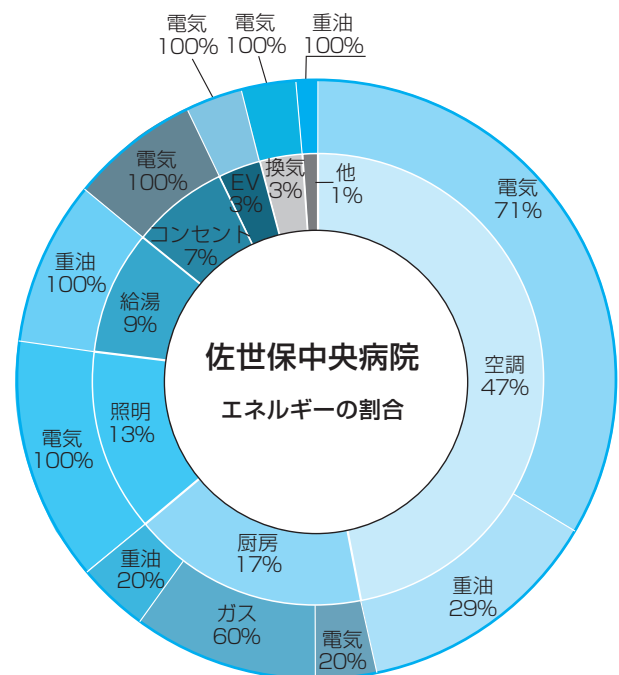
各病棟には、気化式埋込型加湿装置を導入設置しインフルエンザ予防対策に努めています。

2.省エネ対策

佐世保中央病院は2008年の省エネ改正により第2種エネルギー管理指定工場とされ省エネルギーに努めることになりました。

これまでの省エネ対策としては、省エネ委員会を設立し照明の間引、LED照明への切换え、デマンド制御装置の設置、職員への省エネ啓蒙、適正な空調管理、など患者さんの生活や職員の業務に支障がないよう心がけて取り組んでいます。

※詳しい内容は、P184省エネルギー推進委員会をご参照ください。



今年度の重点目標・評価と来年度への展開

■ミッション

市民および白十字会関連施設を利用する人々のために、施設管理業務を通して、施設の「アメニティの向上」、「地球温暖化防止」、「災害防止・保安対策」を推進します。

■ビジョン

技術的に、人間的に、信頼される施設管理技術者となります。

■研究・学習

年4回関連グループ施設課代表が集まり部門会議を開催し、課題に向けての発表を行なっています。また各施設との情報交換を行い、新しい取り組みや各施設の問題点を協議し、施設の円滑な運用が図られるよう取り組んでいます。

◎システム開発室(法人本部:医療情報本部)

法人各施設およびグループ施設のICT(情報通信技術/設備)に関する業務分析、システム設計、プログラム製造/改修、システム運用/管理を行っています。

職員配置

開発業務担当	運用業務担当	合計
9人	5人	14人

取得認定資格

資格	人数
ICTプロフィシエンシー検定試験(旧パソコン検定)	1名
初級医療情報技師	5名
応用情報処理技術者	2名
医療情報システム監査人	1名

活動状況

■HOMESサーバハードウェア更新準備

サーバ機器の選定、他社製システムとの接続の検証など

■HOMES端末ハードウェア更新準備

Windows7でのHOMES端末の動作検証

■職員向けパソコン研修会の開催

8回開催(延べ参加者数:27名)

■HOMES内部監査の実施(当院内部監査規定に準ずる)

9月28日に実施

■個人情報保護研修の開催

11月20日に実施

■部門内勉強会の実施

2回開催(7月7日,12月1日)

今年度の重点目標・評価と来年度への展開

	2011年度 (実績値)	2012年度 (実績値)	2013年度 (目標値)
HOMES職員満足度調査の結果(5点満点)	3.8	3.7	3.8
法人内他施設訪問回数(セキュリティ面での確認等)	5	9	17

2013年7月にHOMESサーバ更新予定

- ・BCPの一環として、遠隔バックアップ機能が実装される
- ・個人情報の適切な利用のために、データベースの監視体制が強化される

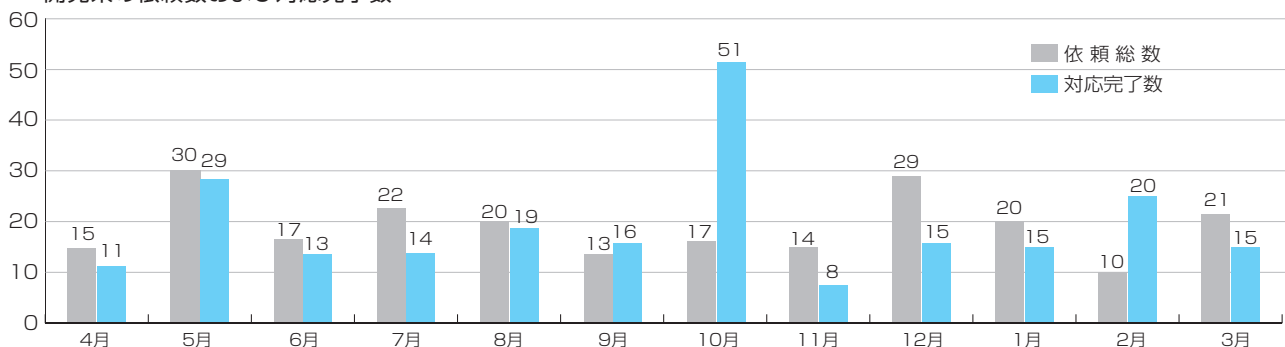
MSW管理項目の法人内3病院(佐世保中央病院/燿光リハビリテーション病院/白十字病院(福岡市))共通化

HOMESの標準化対応…厚生労働省標準規格(医政発0331第1号)への対応。2013年度には一部機能を実装予定。

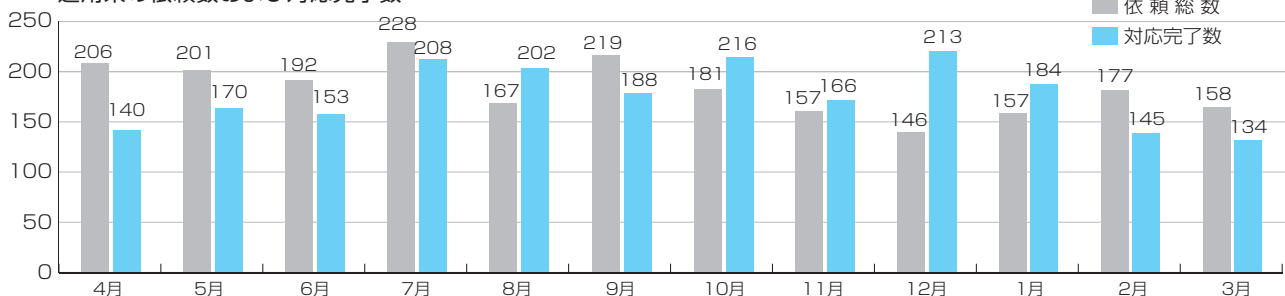
■学会・研修会への参加実績

学会名	演題
第14回日本医療マネジメント学会学術総会	「病院情報システムと一体化がもたらす物流システムの効果」
第32回医療情報学連合大会	「BCP対策としての可動式参照サーバの構築」

開発系の依頼数および対応完了数



運用系の依頼数および対応完了数



◎総務課・財務課(法人本部:総務本部・財務本部)

2012年6月より「総務課」は「総務課」、「財務課」へ分割し、より専門性の高い業務を行っています。総務課では、給与計算・各種労務管理・人事考課・福利厚生・契約業務など多岐にわたる業務を担当しています。財務課では、資産・負債などの予算管理、各種経営資料の作成、企業年金基金等の業務を担当しています。

バックヤード部門として、職員が安心して各々の業務に専念できるように、各種情報の発信や福利厚生の充実に努めています。

職員配置

	常勤	非常勤
総務課	7人	2人
財務課	6人	1人
総数	13人	3人

取得認定資格

ビジネスキャリア検定(労務管理3級)……………2名
 ビジネスキャリア検定(経理3級)……………1名

活動状況等

■出前講座(各種規定、福利厚生などの説明会)

新入職員(4月)	1回
中途採用者	4回
部署別	4回

■総務課・財務課ニュースの発行

年3回(6月・9月・2月)

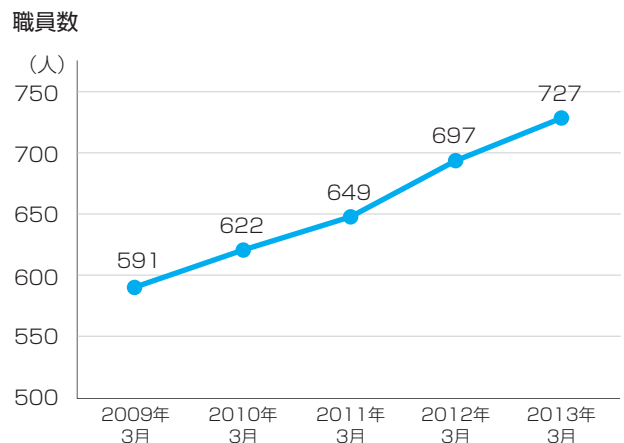


■福利厚生関連

- ・お気楽くらぶ(月3回)
 - バドミントン、バスケットボール、テニス
- ・ソフトバンクホークス観戦チケット抽選(7月・3月)
- ・レクリエーション大会
 - (6月23日:佐世保市立体育文化会館)
- ・卓球倶楽部 創立(2013年2月)



■佐世保中央病院職員数の推移



【地域医療連携センター】

当院は、地域の医療機関との連携を深め、より一層の地域医療の充実を図るため、地域の医療機関に入院病床やCT・MRIなどの医療機器を開放し共同で利用することができる「開放型病院」として、また地域の医療機関からご紹介いただいた患者さんに、より詳しい検査や専門的な治療をおこなう「地域医療支援病院」として運営を行っています。

地域の医療機関からの紹介患者様の診療予約サービスや、開放型病床における共同指導、地域の医療機関に広く情報を提供するメディカルネット99とよばれるシステムの運用などを通して、患者さんの診療情報を地域医療機関と共有し、より円滑な紹介受入れ、当院から地域医療機関へ患者さんのご紹介を行うことで、地域住民の皆様が一貫した診療体制の中で安心して治療していただけるよう努力しています。また、退院後も安心して生活していただけるよう、医療ソーシャルワーカーが介護保険などの各種制度のご案内や各種の医療福祉施設のご紹介、また経済的なご相談をお受けするなど患者さんを支援しています。また、地域連携パスの実施状況、ベッド稼働の状況などの各種統計も地域医療連携センターの重要な役割であり、あわせて紹介患者いかんを問わず当日の入院依頼におけるベットセンターの機能も有しています。

職員配置

医 師	看 護 師	医療ソーシャルワーカー	事務職員	合 計
1人(兼任)	1人	5人	5人	12人

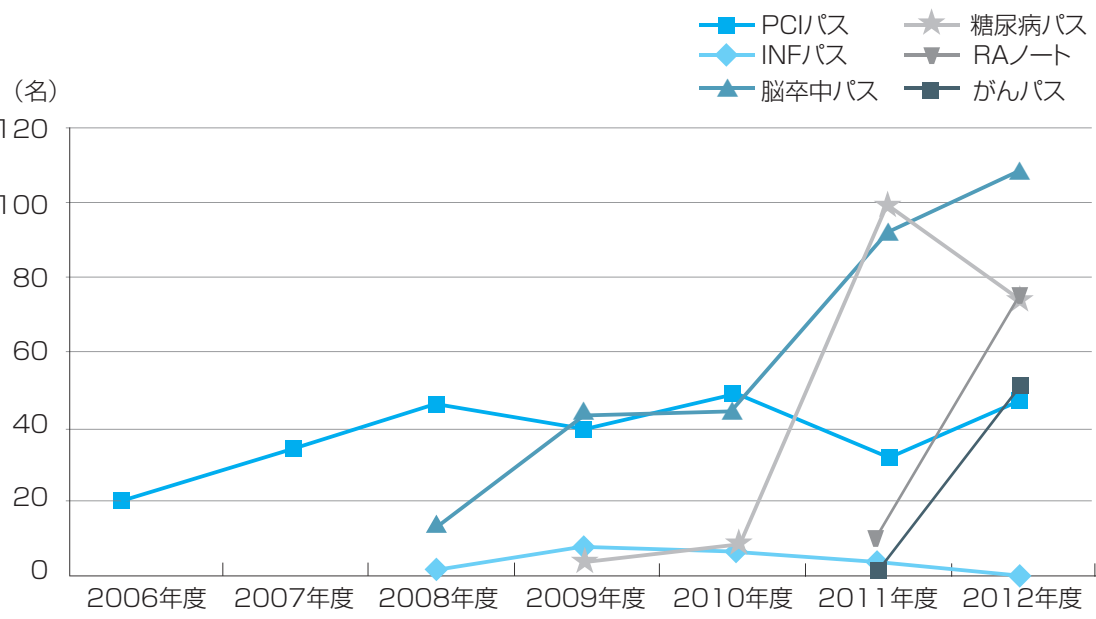
活動状況

紹介率など各種の統計についてはP36病院統計をご参照ください。

重点目標・評価と来年度への展開

2012年度は長崎県下をネットワークする医療連携情報システム「あじさいネット」に加入いたしました。これにより在宅診療も含めた地域医療機関との連携をより一層深めていくことが可能になります。また、今後は病棟の退院支援看護師と協働し、医療ソーシャルワーカーを中心に、より早く患者さんの問題解決をお手伝いすることにより、早期の退院や在宅医療へのスムーズな移行を促していきます。

■地域連携パス新規導入患者数推移



	運用開始時期	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	計
PCIパス	2006年5月	20	26	43	40	44	33	45	251
IFNパス	2008年8月			1	8	6	3	0	18
脳卒中パス	2009年2月			17	42	42	92	108	301
糖尿病パス	2009年8月				5	8	96	75	184
RAノート	2011年7月						8	77	85
がんパス	2012年3月						1	48	49
合計		20	26	61	95	100	233	353	888

PCIパス：2012年度も年間45件と順調に推移している状況。

IFNパス：大幅な増加はなく低位にて推移している状況。

脳卒中パス：2011年、2012年度は脳外科患者の増加によりパス適用患者も増加。

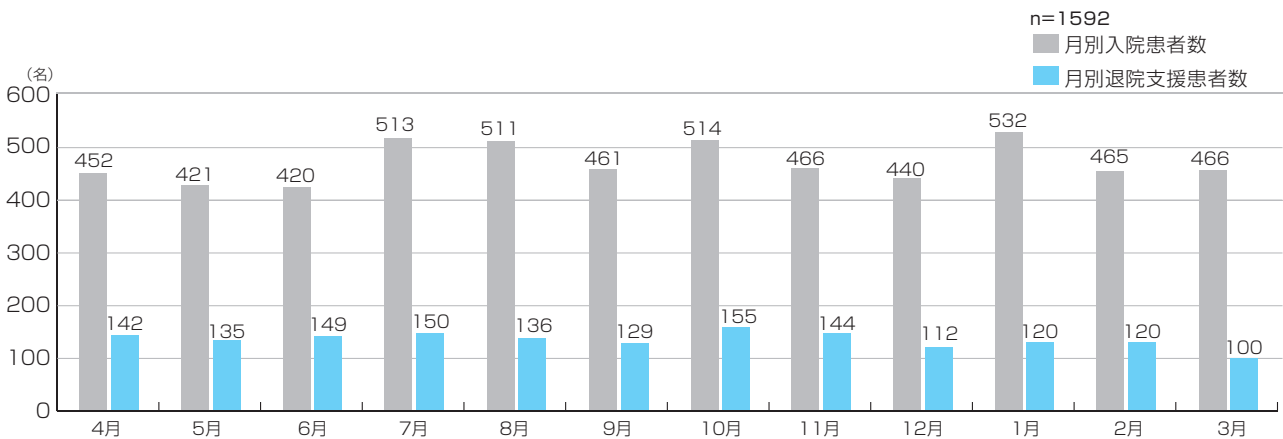
糖尿病パス：2012年度も昨年度並みに推移。

RAノート：2012年度はパス適用患者が大幅に増加。

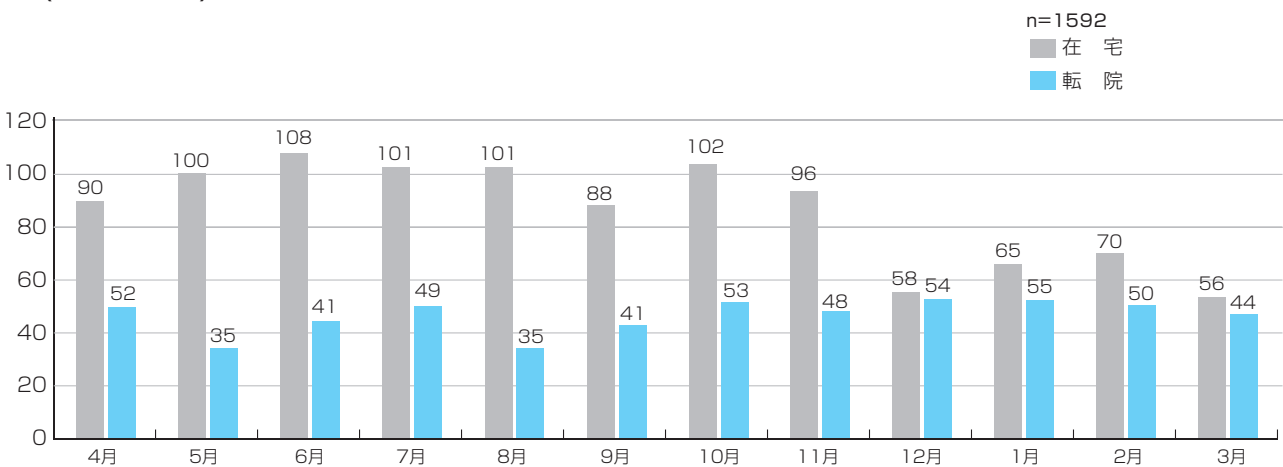
がんパス：2011年度運用開始したが、運用面で改善が必要。

MSW活動報告

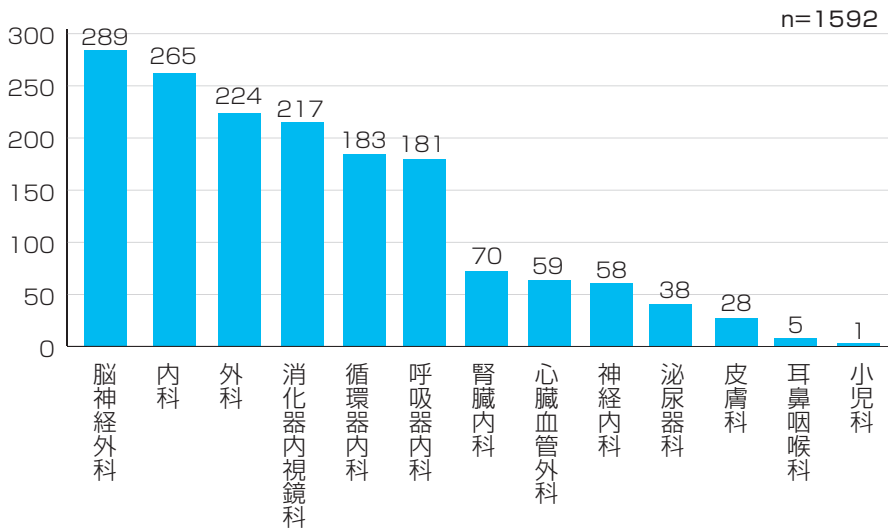
MSW退院支援介入件数



(在宅・転院)別MSW退院支援介入件数



■診療科別MSW退院支援件数



患者相談実績

患者数	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
合計	970	1,562	2,095	1,768	1,598

(相談患者実数)

患者相談内容	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
① 経済的相談	70	128	119	150	198
② 生活の場の設定相談	52	55	33	25	56
③ 転院相談	433	577	697	702	708
④ 在宅療養の相談	43	463	533	561	584
⑤ 受診・受療相談	44	130	92	96	103
⑥ 疾病理解・傷害受容相談	20	99	55	66	71
⑦ 人権に関する相談	58	170	90	99	89
⑧ 就労・教育・社会復帰相談	15	19	28	38	40
⑨ 心理相談	309	553	561	484	587
⑩ 関係機関(者)との調整相談	1,165	1,690	2,122	2,231	2,251
⑪ 医療福祉制度相談	487	790	1,142	1,280	1,180
⑫ がん・難病疾患相談	646	972	1,142	1,268	1,346
合計	3,342	5,646	6,614	7,000	7,213

(相談延べ件数)

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
一人あたり平均相談件数	3.4件	3.6件	3.2件	4.0件	4.5件

【健康管理部】(健康増進センター)

佐世保中央病院に併設された健診施設で、2002年に、これまでの白十字会医療社会事業部から新たにゆとりのある空間での快適な受診環境へと整備されました。

ドック基本項目の上部消化管検査と乳がん子宮がん検診等を除いては、ワンフロアで受診可能な環境となっています。人間ドック健診をはじめ、様々な健診において、日本消化器病専門医、日本医学放射線学会専門医、日本内科学会認定内科医、検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師などの各専門スタッフが担当し、健診の質の確保を図っています。

また2008年12月、運営の合理性などの第三者による客観的な評価として、日本人間ドック学会の健診施設機能評価を受審し、認定を取得することができました。これからも業務内容と環境の両面での見直しを行い、利用者目線で質とサービスの向上に取り組んでいきます。

認定施設

人間ドック学会健診施設機能評価(Ver.2)認定施設
マンモグラフィ検診画像認定施設
健康保険組合連合会指定健診施設
全国健康保険協会管掌健診指定施設

職員配置

	常 勤	非常勤
医 師	3人	4人
保 健 師	5人	—
看 護 師	2人	2人
事 務 員	5人	9人
合 計	15人	15人

*健診事業において、本院の医師及び臨床検査技師、放射線技師の支援を受けている。

活動状況

■ 健診コース別受診者数

健診種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
政 府 管 掌	一般健診		79	185	135	167	144	285	288	276	223	229	23	2,034
	付加健診		1	8	9	14	2	20	18	16	18	14	4	124
	肝炎													
	婦人科健診		9	13	13	18	6	39	35	27	36	14	5	215
人 間 ド ック	半日ドック	30	51	92	191	212	140	107	111	68	122	150	219	1,493
	一泊ドック	7	13	20	41	42	31	44	34	32	29	33	28	354
	レディースドック				30	37	29	31	16	22	17	20		202
	肺ドック				36	53	19	6	7	16	5	3		145
健 康 診 断	定期健診	111	147	200	110	88	48	69	67	102	89	98	117	1,246
	成人病健診	33	71	21	24	25	54	45	46	32	22	25	13	411
	その他	4	9	8	9	21	14	15	10	19	6	15	5	135
	職員	461	324	502	382	15	14	130	110	131	96	20	21	2,206
佐 世 保 市 関 連	国保脳ドック							8	7	8	5	7	8	43
	胃癌検診	66	74	76	77	84	83	75	90	77	82	84	96	964
	肺癌検診	47	33	81	80	75	77	83	92	73	89	96	150	976
	子宮癌検診	62	57	76	95	72	88	96	99	90	85	129	178	1,127
	乳癌検診	65	64	92	97	78	106	114	116	107	96	134	197	1,266
	大腸癌検診	53	47	82	88	84	93	102	105	82	89	108	183	1,116
	前立腺癌検診	21	11	31	24	26	31	25	31	21	29	30	41	321
	被爆者(含二世) 特定健診		5	76	60	54	58	49	57	53	58	80	125	675
実績件数	1,087	995	1,563	1,501	1,165	1,037	1,343	1,339	1,252	1,196	1,289	1,413	15,180	

■ 健診検査別実施数

P97診療科実績(健康増進センター)をご参照ください。

■ 学会・講演会記録

開催日	訪問先(講演場所)	講演内容	講演者
2012年 11月23日	東小佐世保公民館	ロコモティブシンドロームについて	深井 絵美 青井 仁美 (保健師)
2013年 2月11日	日赤熊本健康管理センター	当センターにおける人間ドック受診者の肺年齢の傾向	深井 絵美 (保健師)
		当センターにおける待ち時間調査結果について	手柴 紗由里 (事務)